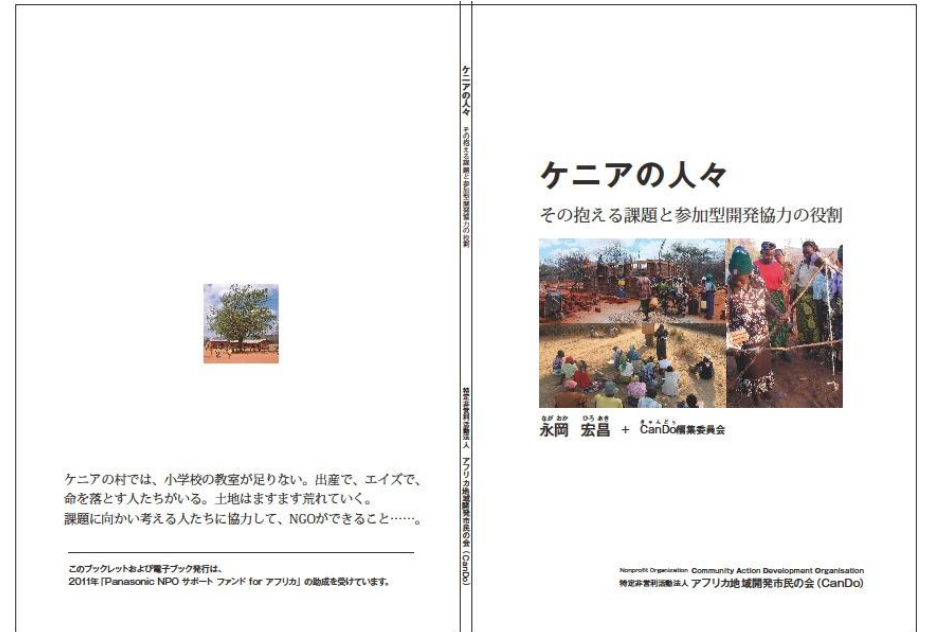


キャン ドウ

# CanDo アフリカ

特定非営利活動法人 アフリカ地域開発市民の会(CanDo) 会報 2011年7月 [第55号]



CanDo の活動の方向性 原発事故と私たちの国際協力  
ナイロビ便り ボランティアリズム

永岡 宏昌  
景平 義文

住民の学校運営能力向上と教室建設の近況  
インターンを終えて

井本佐保里  
田 涼子 / 井本佐保里

2011 年度年次総会報告

ブックレットと電子ブック  
『ケニアの人々—その抱える課題と参加型開発協力の役割』を発行しました  
事務局から

## 原発事故と私たちの国際協力

代表理事 永岡 宏昌

3月11日の東日本大震災、それに続く福島第一原子力発電所の事故は、被災された方たちの痛みの甚大さとは異なりますが、私たちに大きな困難をもたらしました。この課題を克服するために、長期間にわたって多大な努力を積み重ねることが必要な状況となりました。

ケニア共和国ムイギ東県の状況を見えます。公共サービスが限られている中で、人々への健康に関する情報やサービスの提供が限定的で、かつ、時にはゆがめられた情報が意図的に流布されている、と当会は観察しました。このような状況では、まずは、住民自らが、教育・保健・環境に関する知識・技能を身につけること。生活の中で自律的に実践・応用できること。状況を的確に理解する批判的思考や創造的思考が向上すること。**それら**が、子どもの健康ひいては生存を守ることに直結していると強く感じました。

このため、当会の活動は、モノを提供することを最小限にとどめ、多くの住民に標準的な知識・技能を提供する研修や学習会の開催、地域の課題について住民同士で話し合う機会の提供と、課題を解決することでの成功体験と感じてもらえる協力を目指してきました。そして、提供する情報について、日本か

らの直輸入ではなく、ケニアの保健政策などを尊重しつつも受け売りでもなく、地域の現実生活の視点から有用であることを心がけています。

対比して、私たち日本の生活は、公共サービスやマスメディアを通して、住民の健康・安全に関する情報や各種サービスが綿密に提供されているものと思っていました。しかし、今回の放射性物質の拡散では、住民の健康を守る以外の都合が優先され、ゆがんだ情報・主張が強弁され、広く流布され続ける事態となりました。私たちも、ムイギの人々と同様に、難しい放射能被害についても、しっかり理解し、現実生活の中でのリスクの低減、状況の改善をすすめる社会の動きを作っていくことが、子どもたちや次世代の人々の生存を保障するために必要なのだと思います。

また、私たち日本人は、大災害の被害者であるとともに、意思をもって、大量の放射性物質を大気と海洋に放出した世界への加害者になってしまいました。日本の工業化による経済開発を失敗例と認め、アフリカの地域の人々が同じ失敗をせずに、新たな豊かさを築いていけるよう、アフリカの人々から豊かさについて学んでいけるよう、現場での協力活動を続けていきたいと考えます。

## ナイロビ便り

### ボランティアリズムについて

調整員 景平 義文

このところ、ボランティアリズムについて考えている。ボランティアリズムの定義についてはさまざまあるが、ここでは「ボランティア活動や市民活動を支える精神あるいは動機付け」というほどの意味合いで用いている。その意味合いからすると、CanDo もまたボランティアリズムによっている。

ボランティアリズムをあらためて考える一つのきっかけとなったのは東日本大震災である。

震災後、多くのボランティアが被災地で活動し、復興に貢献している。しかし、その一方で、行政がボランティアの受入れを制限するなど、混乱も見られているようである。

ボランティアリズムに基づく活動は、自らの得意なことを生かし、思い立ったときになされるものである。公平性を原則とする行政とは根本的に発想が異なるものであり、だからこそ行政にはない速さで、行政には手の届かないことができる。ボランティアリズムに基づく活動とは、行政の代理あるいは補完ではなく、行政によらず人々の手でお互いを支えあう空間を生み出していくものである。大震災を通じて、人々のボランティアリズムを育てていくことが社会にとって大切であることを再認識させられた。

もう一つのきっかけは先月、ムイギで当

会のエイズ研修の参加者たちと話したことである。

他の地域住民にエイズに関する知識を伝える、という当会の期待する役割を研修参加者がどこまで果たしてくれるか疑問を持っていたが、話をすると、彼らの志の高さに深く感銘を受け、なぜこの人たちはこれほどの志の高さがあるのだろうかと思議になった。しかし、この志もまた、自らのできることによって社会を良くしていこうという精神、つまりはボランティアリズムの発露であり、こうしたボランティアリズムはケニアであろうと日本であろうと、人々がすでに持っているものであることに思い至った。

ケニアにあり、ボランティアリズムによるCanDo がなすべき支援とは、行政の代理あるいは補完ではなく、人々がすでに持っているが、まだ形と方向が定まっていないボランティアリズムに形と方向を与え、人々が自らの力で社会を変えていくことを支援することに他ならない。東日本大震災のボランティアのように、混乱はあるかもしれない。しかし、人々のボランティアリズムの発露を支え育てていく、それこそが社会をより良くしていくための「正しい」一歩であることは明らかではないだろう。

## 住民の学校運営能力向上と教室建設の近況

インターン 井本 佐保里

CanDo は、1999 年、当時のムインギ県で、住民が参加して進める教室建設を開始。10 年を経て住民の学校運営能力向上も目的にあげることになりました。現在、ムインギ東県の 6 校の新設校—ワングイユ小学校、イムワ小学校、キャラモコ小学校、カゾメ小学校、カムルユニ小学校、カリオコ小学校—を対象に、教室建設事業を行なっています。

大学院で建築学を専攻していたわたしは、2010 年 6 月に国内インターン\*として研修を始め、11 月から 2011 年 2 月までケニアで主に建設事業に関わりました。

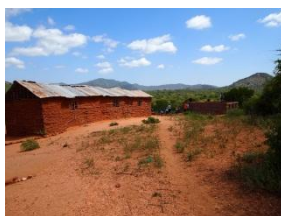
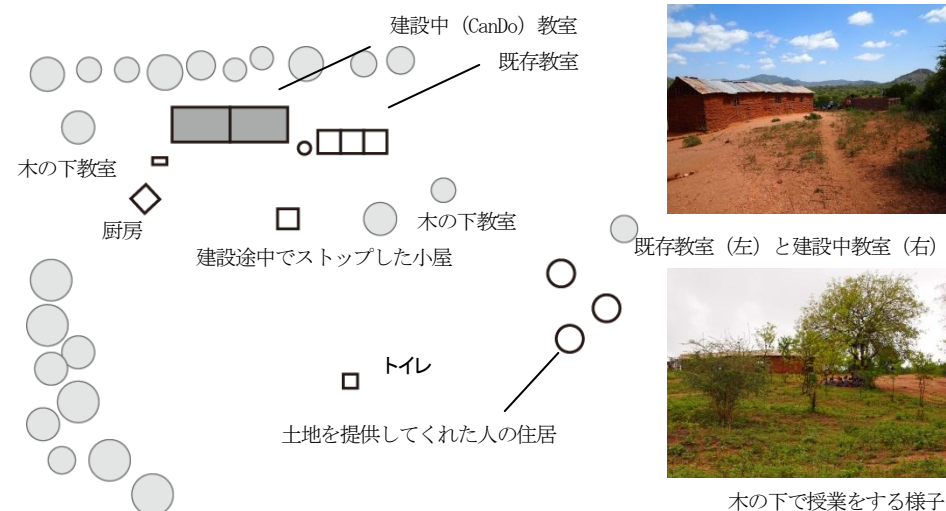
その中で、ワングイユ小学校とカムルユニ小学校の 2 校を取り上げ、両校の特徴とそれに合わせた CanDo 事業の内容について報告します。

### ワングイユ小学校

設立：2009 年

児童数： 80 人

保護者数： 35 人



ワングイユ小学校は、6 校ある事業対象校の中で最もスムーズに進んでいった学校で、運営能力向上の覚書(MOU1)の次の段階、建設に移るための覚書(MOU2)をいち早く締結。その後も議長の強いリーダーシップの下、作業はどこよりも順調に素早く進んでいきました。CanDo のスタッフが学校を訪問す

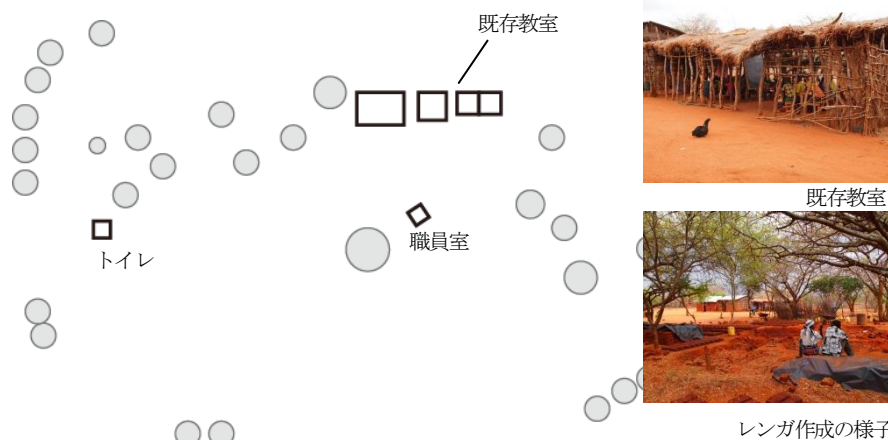
る日には、作業に必要なセメントやシャベル、石がきちんと準備された状態で到着を待ち構えているようなこともありました。そのため MOU2 締結後は、建設の実地研修のための訪問、数回のフォローアップのための訪問が主で、最低限の訪問回数で事業を進めていくことができました。

### カムルユニ小学校

設立：2009 年

児童数： 66 人

保護者数： 25 人



カムルユニ小学校は、当初の期日であった 2010 年 12 月末日までに資材収集を終えることのできなかった 3 校のうちの 1 校でした。学校ごとに遅れた理由は異なりますが、同校の場合は、保護者の合意形成、情報共有に問題が見られ、レンガ作成がなかなか進まないことが原因でした。

保護者全員での情報共有が必要となりました。話し合いの結果、保護者間の連携が進み、その後は急ピッチで作業が進んでいきました。途中、季節外れの雨がレンガを洗い流してしまうという事故もありましたが、その時も前向きな姿勢でレンガを作成し直す等、困難を乗り越え大きく前進する姿が見られました。

そのため、1 月初めから数回に渡って保護者総会を実施しスタッフと共に計画を立て、

\* 会報 53 号「グローバルフェスタ報告」参照。

## インターンを終えて

### 「外部者としての自分」と「内なる存在」となったケニア

田 涼子

2010年9月から2011年3月まで、環境保全事業を軸にケニアの人々と関わった。

地域での学習会や会議、畑を回ってのフォローアップでは、村人の生活や住民同士のつながり方をかいま見ることができた。小学校では、ケニアの小学生の勉強に対する熱意や、保護者が学校の環境活動に参加することの利点を感じることができた。

憧れていた地域開発の現場で、短い間ではあるが生活をして、外部者としての自分を

強く認識した。その一方で、到着当初は「文化的にも地理的にも恐ろしく遠くに来てしまった」と感じていたケニアは、インターンを終えた今、内なる存在となった。そう感じるの、CanDo が人と人との自然なつながりをみているからではないかと思った。

この半年間に出会った人々やお世話になった人々、感じた事などを忘れずにこれからもアフリカと関わっていきたいと思う。

### インターン生として思う CanDo の地盤の強さ

井本 佐保里

7か月間の東京事務所、3か月間のナイロビ事務所での勤務を終えて。特にナイロビでのインターンでは忙しい勤務の中でさまざまなことを体験し、そして考えるきっかけをいただきました。また、現地スタッフのプロ意識、能力の高さにはただただ学ばばかりでした。

元々異なる分野で活動していた私が抱えていた「国際協力」に対するモヤモヤした感情を、今回の経験を通して冷静にとらえる

ことができるようになったと思います。それは、CanDo が行なう「ひとつの支援の形」を理解し納得できたからだだと思います。

インターン生に責任を持たせ事業を進めることのできる CanDo の地盤の強さ、そして、このような機会を与えていただいたことに感謝します。今後は、教室建設事業に関する調査担当として CanDo に関わらせていただく予定で、とても楽しみです。

CanDo では、1999年からケニアにインターンを派遣(98年はボランティアの位置づけ)。2004年、現在のような複数のインターン募集を始めました。

田さんは48人目です(7月5日現在で55人)。一方、外務省 NGO インターン・プログラムの業務委託として、井本さんの研修を行ないました。

## 4月16日、2011年度年次総会を開催しました

2011年度年次総会は、3月27日(日)に予定していましたが、3月11日に起きた東日本大震災後の状況を考慮して延期。4月16日(土)、会場を谷中コミュニティセンター1階 第1会議室に変更して、開催しました。

一般会員35名が出席(うち委任状出席は25名)、定足数23名(総数69名の3分の1以上)を超えて成立。加藤明彦さんが議長を務めて、議案の審議を行ないました。

第1号から4号議案まで、2010年度活動報告案、2010年度会計報告案、2011年度活動計画案、2011年度予算案、すべてが承認されました。

\* \* \*

年次総会の前に、同会議室で開催した2011年度第1回理事会では、玉手幸一事務局長代理の事務局長昇格の人事案が審議され、承認されました。

### ブックレットと電子ブック

#### 『ケニアの人々—その抱える課題と参加型開発協力の役割』を発行しました

5月19日(木)から行なっているCanDo連続勉強会(全10回)は、2009年に開始。2年目、2010年の記録をもとにブックレット『ケニアの人々—その抱える課題と参加型開発協力の役割』(永岡宏昌+CanDo編集委員会著)を発行し、第1回の参加者から配布を始めました。6月27日、パソコン版とiPhone版の電子ブックを発行する予定です。

共通テーマのタイトルにはその年によって、違いはありますが、第1回から9回までの構成は変わらず、ブックレットの第1章から9章は勉強会と同じ流れです(10回目は参加者で作る形)。どこでも、いつでも、勉強会の「さわり」を学ぶことができるブックレットを、この分野に関心のある方にすすめてください(送料は負担していただきます)。

### お知らせ—今後のCanDo連続勉強会

第8回 7月7日(木) 環境問題

第9回 7月14日(木) スラムの暮らし

第10回 7月21日(木) 未定

時間: 19:00~21:00

会場: 港区立三田いきいきプラザ集会室 A

詳細はウェブサイトをご覧ください。

### 発行記念 CanDo 報告会

「アフリカの抱える課題解決に向けての NGO の役割」

日時: 7月26日(火) 19:00~21:00

パナソニック(株)CC本部社会文化グループ 戦略推進室室長横川巨氏のお話、永岡代表理事の報告のあと、対談を行ないます。

## 事務局から

### 報告

#### ◇調査

○2月18日～26日、永岡が新規事業の候補地、ザンビアにおける教育、保健の状況を視察。

#### ◇支援

○3月31日、(独行)環境再生保全機構 地球環境基金の助成「ムインギ東県ムイ郡での『地球温暖化による気候変動に対応するための子どもと地域住民の環境意識と技能向上事業』の3年目(最終年度)が終了(400万円)。

○3月31日、外務省 NGO インターン・プログラム受け入れ期間終了。

#### ◇組織

○3月27日に予定していた、2011年度第1回理事会、および2011年度年次総会を東日本大震災後の状況を考慮して延期。4月16日に開催(p.7参照)。

#### ◇国内活動

○3月9日、JICA 地球ひろばジュニア地球案内人プログラムで大学生の訪問受け入れ。

○5月19日、CanDo 勉強会(全10回)「ケニアの人々—その抱える課題と参加型開発協力の役割」を開始。同名のブックレットを発行し、配布を開始(p.7参照)。

○6月5日、「関西からアフリカのエイズ問題を考える」で永岡宏昌代表理事が講演。

### 人の動き

○3月18日、田 涼子が6か月のインターンを終了して帰国。

○3月22日、永岡がケニアから帰国。

○4月17日～5月10日、永岡がケニアに出張。

○4月18日、小松映里佳(こまつ えりか)を3か月の短期インターンとしてケニアに派遣。

○5月5日、高木加代子(たかき かよこ)を短期調整員としてケニアに派遣。

○6月2日、岡本優子(おかもと ゆうこ)、6日、三浦明子(みうら あきこ)をインターンとしてケニアへ派遣(6か月の予定)。

○6月25日、石田純哉(いしだ じゅんや)を調整員としてケニアへ派遣。

■次号は、9月発行の予定です。

**CanDo アフリカ** 2011年7月 [第55号]

2011年7月5日発行

発行人:

永岡宏昌

編集人:

佐久間典子

発行:

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)

〒110-0001 東京都台東区谷中 2-9-14 第2森川ビル B号室

電話/FAX:

03-3822-1041

電子メール:

tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト:

http://www.cando.or.jp/

郵便振替:

口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会